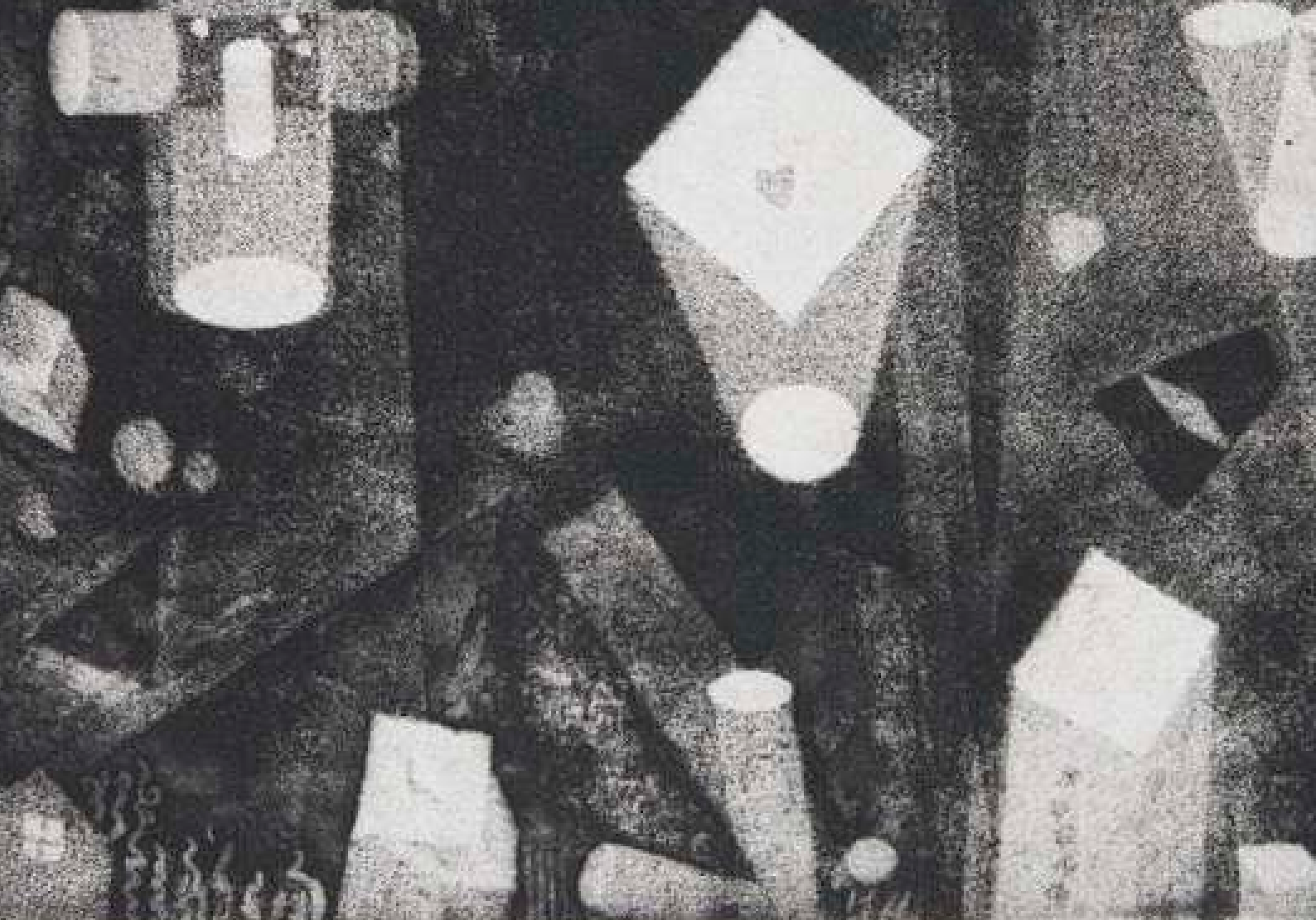


銅版画家・駒井哲郎

掌上にひろがる星座のように

Copperplate Print Artist Koma Tetsuro: Constellations on the Palm of His Hand

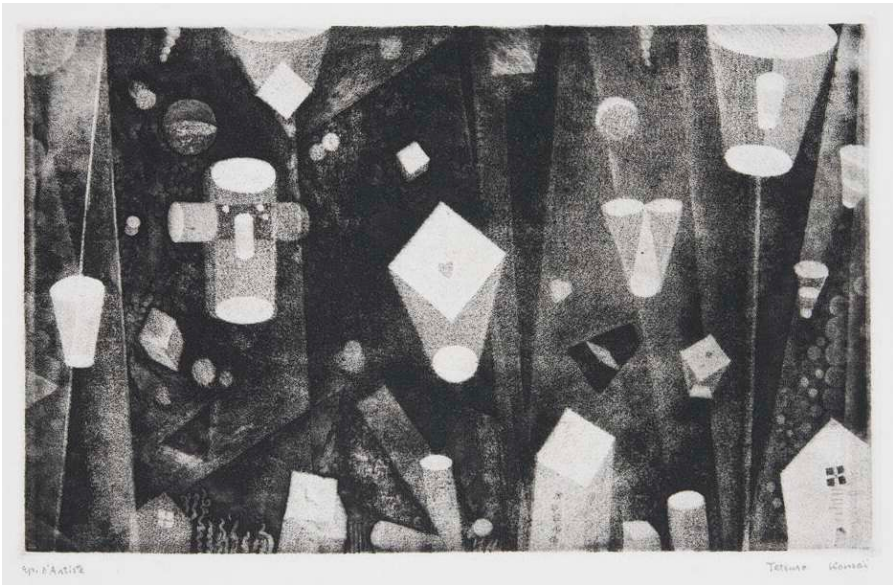


駒井哲郎《東の間の幻影》(部分) 1951年 サンドペーパーによるエッチング 世田谷美術館蔵 福原義春コレクション

2026.
9.12^{Sat.} [±] → 11.15^{Sun.} ^日

※一部展示替え

開館時間：9:30-17:00（入館は16:30まで）
休 館 日：月曜日（9月21日、10月12日を除く）
主 催：神奈川県立近代美術館、東京新聞
観 覧 料：
一般1,200円/20歳未満・学生1,050円/65歳以上600円/高校生100円
*中学生以下の方と障害者手帳等、マイロIDをご提示の方（および介助者原則1名）は無料です。
*無料開館日：10月11日（日）葉山館開館記念日、11月3日（火・祝）文化の日
*ファミリー・コミュニケーションの日：毎月第1日曜日は、
18歳未満のお子様連れのご家族は割引料金（65歳以上の方を除く）でご覧いただけます。
*その他の各種割引はお問い合わせください。
*最新情報は美術館ウェブサイトか電話でご確認ください。



駒井哲郎《東の間の幻影》1951年 サンドペーパーによるエッチング 世田谷美術館蔵 福原義春コレクション

【関連企画】

○講演会「師・駒井哲郎の思い出」

講師：渡辺達正（版画家）

9月19日[㊥] 午後2時～3時 講堂

○講演会「駒井哲郎の装幀から見えてくるもの」

講師：堀江敏幸（作家・フランス文学者）

10月31日[㊥] 午後2時～3時 講堂

○担当学芸員によるギャラリートーク

9月26日[㊥]、10月10日[㊥] 各日午後2時～2時30分 展示室

*いずれも申込不要、無料（ただし展示室でのイベントには本展の当日観覧券が必要です）。

*詳細とその他のイベント等は当館ウェブサイトでお知らせします。

【同時開催】

葉山館 展示室3b, 4

コレクション展「たそかれ、かはたれ—現代美術における“翳”」

鎌倉別館 Tel. 0467-22-5000

「山室眞二の薯版画〈かまくら博物誌〉併陳 コレクション 暮らしの中で」
-9月27日（日）

「ポーランド・ポスター2 銅版画家渡辺千尋旧蔵品から」

10月17日（土）-2027年1月31日（日）

アクセス

公共交通：JR横須賀線「逗子」駅前（東口3番のりば）または京浜急行「逗子・葉山」駅前（南口2番のりば）から京浜急行バス「逗11」または「逗12」系統（海岸回り・葉山行）で「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」下車（所要約20分）

車：横浜横須賀道路「逗子IC」または「横須賀IC」から7～8km

葉山館駐車場（有料）のご案内

営業時間：8:30～18:00（入庫は16:30まで）

駐車料金（1時間/追加は30分毎に加算）：普通車400円、大型車1,200円

*本展観覧券をお持ちの方は1時間無料です。

*レストランやショップで2,000円以上ご利用いただいた方は1時間無料（企画展観覧券と併用で最大2時間）となります。

*貸切バス等（定員11名以上の車）でご来館の場合、駐車場の事前予約および前面道路の通行許可申請が15日前までに必要です。

神奈川県立近代美術館 葉山
The Museum of Modern Art, Hayama

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1

2208-1 Isshiki, Hayama, Kanagawa 240-0111

Tel. 046-875-2800 Fax. 046-875-2968

www.moma.pref.kanagawa.jp



恩地孝四郎《ドビュッシー“金色の魚”》1933年 木版 個人蔵（駒井哲郎旧蔵）



駒井哲郎《『新潮』（1972年5月号）表紙原画》1972年 モノタイプ、パステル粉 個人蔵

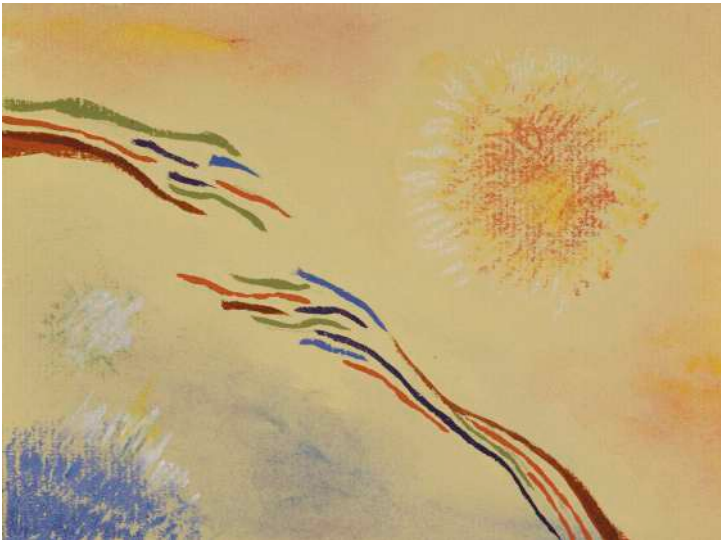


—— 僕は銅版画が好きだ。うす薔薇色の鏡のように磨かれたほのかに光る銅版を見ていると、版の上に色々のイメージが想像の裡に浮んでくる。

駒井哲郎「銅版画」『アトリエ』1951年6月



駒井哲郎《孤独な鳥》1948年 ソフトグラウンド・エッチング、メゾチント 世田谷美術館蔵 福原義春コレクション



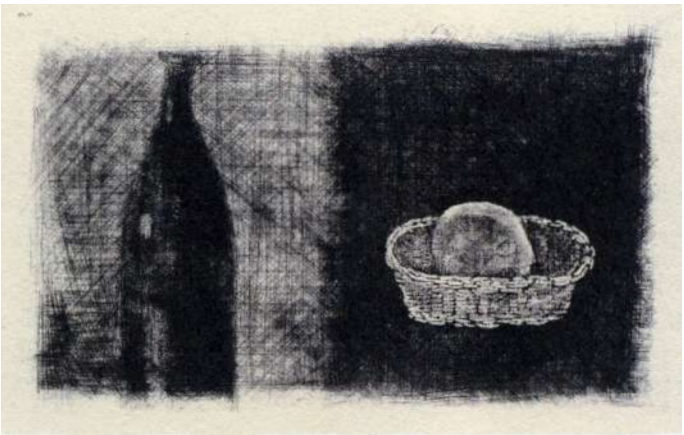
駒井哲郎《オートスライド「レスビューグ」スライド原画》1953年 紙、グワッシュ、パステル 千葉市美術館蔵 ※展示期間：～10.18



駒井哲郎《作品名不詳（河岸風景）》1954年以前 カンヴァス、油彩 世田谷美術館蔵



駒井哲郎《Le Rêve (星月夜[夢No.3])》1950年 アクアチント、メゾチント、ドライポイント 世田谷美術館蔵 福原義春コレクション



安東次男（詩）、駒井哲郎（画）
《詩画集『人それと呼んで反歌という』より PL.10「食卓にて、夏の終りに」》
1965年 エッチング、リフトグラウンド・エッチング 世田谷美術館蔵 福原義春コレクション



駒井哲郎《自画像》1942年 カンヴァス、油彩 東京藝術大学蔵

本展は、駒井の没後50年を記念し、初期から晩年までの軌跡をたどるものです。世田谷美術館の福原義春コレクションを主軸に、これまで紹介する機会の少なかった初期の油彩画や、初公開となる童話『夢を追う子』の挿絵原画などを紹介します。駒井が影響を受けたオディロン・ルドンや長谷川潔、恩地孝四郎といった国内外の作家の作品に加え、銅原版、制作道具、写真などを通し、多岐にわたる創作活動と、その人間像に迫ります。



駒井哲郎《『夢を追う子』表紙・裏表紙原画》1971年頃 エッチング、パステル粉 個人蔵

—— 今、振り返る「銅版画の詩人」の軌跡

日本の版画史に重要な足跡をのこした版画家・駒井哲郎（1920-1976）。

10代半ばで銅版画制作と出会い、東京美術学校（現・東京藝術大学）油画科で学んだ駒井は、戦後、1951年に《東の間の幻影》により第1回サンパウロ・ビエンナーレで在聖日本人賞を受賞しました。若い美術家や音楽家などが結成した「実験工房」の活動に参加した後、1954年に渡仏すると、西欧の様々な版画に触れる経験を経て、帰国後は晩年まで詩情あふれる作風で制作を重ねました。詩画集をはじめ文学者らとの協働による仕事にも数多く携わり、『銅版画のマチエール』（1976年）などの著作も多数残しました。技法の丹念な探求や創作への姿勢は、同時代、そして後の作家たちに大きな刺激を与えています。

Copperplate Print Artist Koma□Tetsuro
Constellations on the Palm of His Hand



駒井哲郎《CONSTELLATION I (星座 I)》1971年 モノタイプ 東京都現代美術館蔵